

雄阿寒岳の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

平成 23 年 6 月 7 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

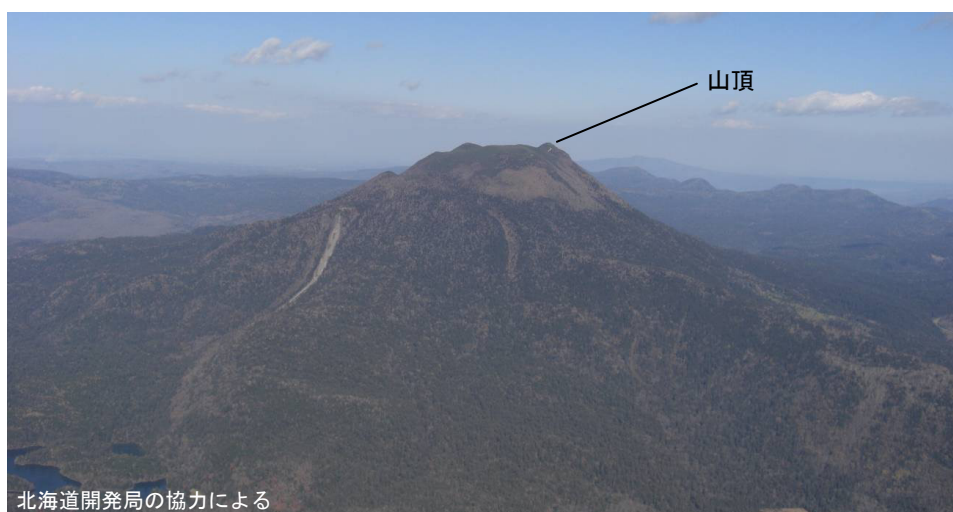
・ 火口や噴気の状況（図 1～3）

19 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。北側斜面の地熱域では噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では弱い地熱域が認められましたが、これまで（前回：2009 年 4 月）と比較して、地熱域の拡大や温度上昇傾向は見られませんでした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 雄阿寒岳 周辺図 矢印は赤外熱映像及び写真の撮影方向



北海道開発局の協力による

図 2 雄阿寒岳 全景（図 1-①から撮影）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

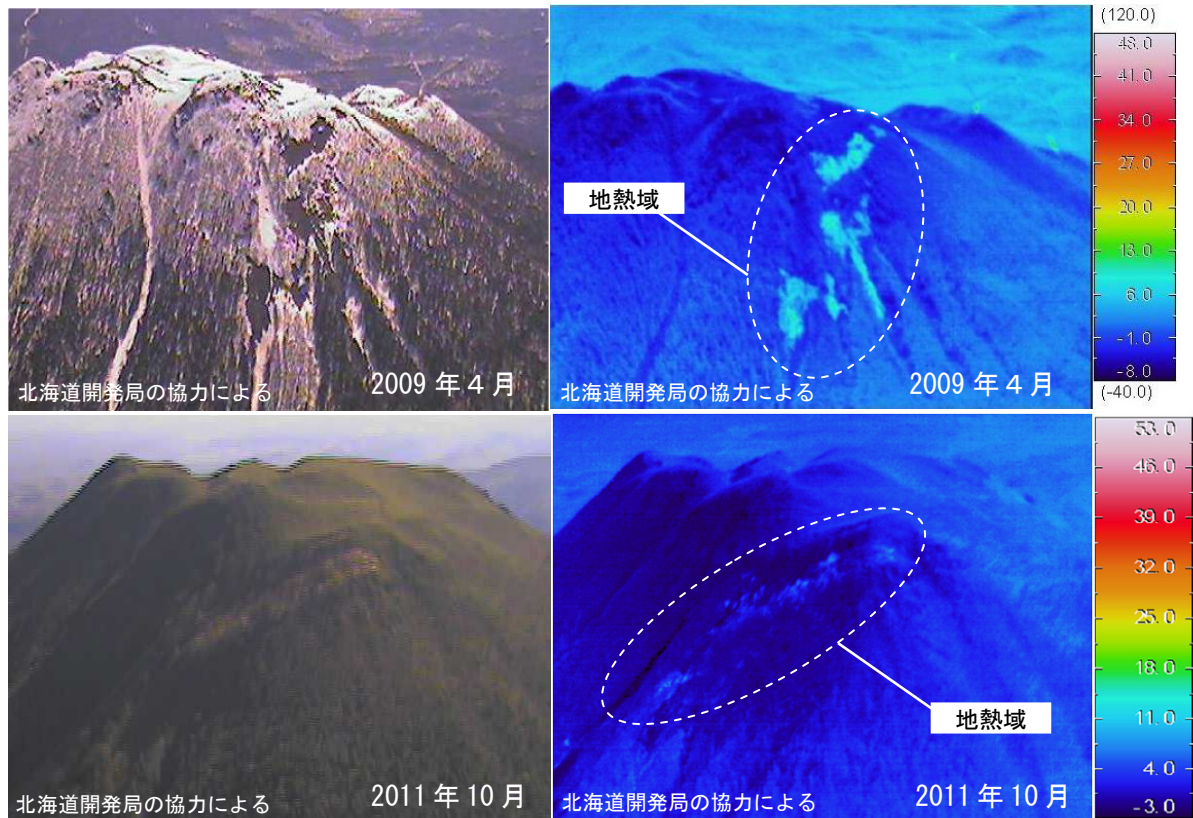


図 3 雄阿寒岳 北側斜面の地表面温度分布
上段：図 2-②から撮影、下段：図 2-③から撮影

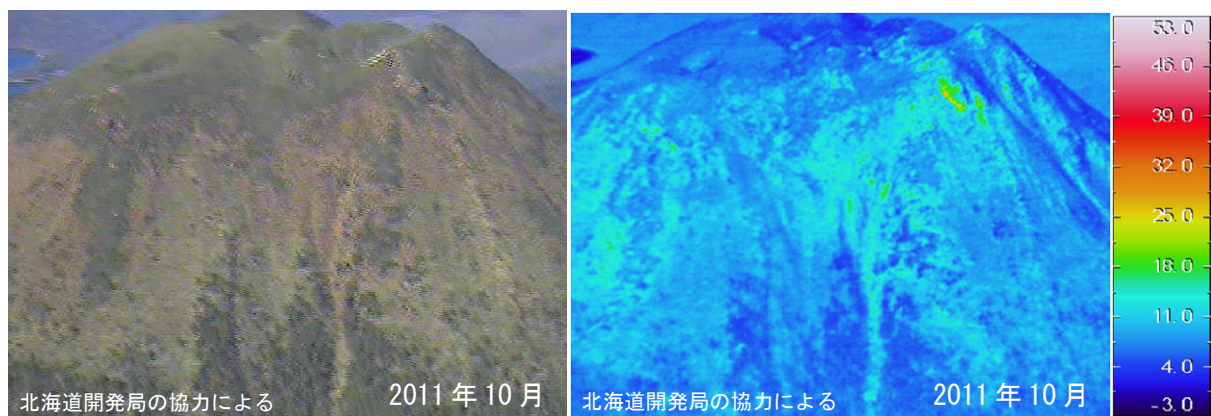


図 4 雄阿寒岳 南東側斜面の地表面温度分布（図 2-④から撮影）